

金光教東京平和宣言 2025

私たちは、神のいとし子同士が傷つけあい、殺しあい、ご神体である天地を破壊し、神の恵みを粗末にする、すべての戦争に反対します。

戦争は人の苦しみであり、神の悲しみです。どのような理由をつけたとしても、許されるものではありません。

今年、第二次世界大戦の終結から 80 年を数えました。

80 年前の戦争で、世界は大きく傷つきました。

日本では、東京大空襲をはじめ各地の空襲で、沖縄の地上戦で、そして広島・長崎の原爆などで、多くの人々が殺されました。戦地では、敵も味方も多くの兵士が命を落としました。またアジア太平洋地域では日本の侵略を受け、戦争に巻き込まれ、多くの人たちの命と尊厳が奪われました。

戦争は 80 年前に終結しましたが、傷は癒されず、補償を受けることもなく、終わることのない戦争の苦しみを背負っている人たちが、今もいます。

私たちは、金光教が教団を挙げて戦争に協力したことに対する深い反省をもとに、無残にも殺された人たちのことを、時代を超え、国を越えて悼みます。

今も戦争の苦しみを背負う人たちに心を寄せ、その立ち行きを祈ります。

歴史から戦争の酷さと非人道性を学び、伝えていきます。

戦争は、この 80 年の間にも絶えることはありませんでした。今この瞬間も人々は、戦いを強要され、殺し、殺され、傷ついています。

私たちは、人類が今もなお戦争を繰り返していることを神様にお詫び申しつつ、戦争・紛争の終結と世界の平和実現を祈ります。

世界の戦争当事国に停戦の努力を、国際社会に停戦を促す平和的な仲裁努力を求めます。

国家間の緊張を高め、際限のない威嚇の連鎖につながる、あらゆる軍備の拡張に反対し、特に核兵器・化学兵器の廃絶を求めます。

今、第 42 回金光教東京平和集会にあたり、私たちは、「心で人を殺すのが重大な罪である」との教祖の戒めを心に刻み、「人が人を助けるのが人間である」との真の生き方に立ち返り、二度と戦争を起こさない不戦の誓いを新たにいたします。

すべてのいのちが尊ばれ、すべてのいのちが立ち行く平和な世界を実現するために。